

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ミニヨンヌアリス		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 26日		～ 令和8年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名 (17組)	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 26日		～ 令和8年 2月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 24日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・専門職(作業療法士・心理士)の視点を取り入れ、集団・個別の療育を組み合わせた支援を行っている。	・保護者のニーズに応じて、専門職から助言や個別相談を受けられる機会を設定している。(随時、発達検査も実施し、アセスメントに沿った支援を行っている。)また、作業療法士・心理士による個別療育も実施しており、集団と個別療育を組み合わせ、お子様の特性や発達段階に合わせた支援を行っている。	・専門職の助言を支援計画へより反映する。 ・職員間での専門的視点の共有。
2	・親子療育や保護者向けの研修会を定期的に開催し、親子での関わりを深めたり、関わり方を学ぶ機会を設けている。また地域支援として、子ども食堂を開催し、地域の方々との交流の場を設けている。	・親子療育や子ども食堂など様々な活動やイベントを企画し、保護者や地域の方々に参加しやすく、楽しい交流の場となるように工夫している。	・保護者の方々のニーズに応じた保護者向けの研修会の充実を図る。
3	・買い物活動や野菜収穫など、日常生活や社会につながる実体験を多く取り入れた支援を行っている。	・法人内のグループホームと連携し、畑を活用できる環境が整っている。また、活動で学んだ事を、本番の買い物で実施し、成功体験につながるようにしている。	・活動前後の振り返りをより丁寧に行う。 ・個別支援計画との関連付けを強化する。 ・発達段階に応じた目標設定の工夫。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・言語聴覚士の配置に至っていない。(事業所内)	・人材確保が困難な状況。	・派遣事業で外部の言語聴覚士による助言・指導体制をとっている。今後、必要に応じて頻度を増やしていくことを検討中。
2	・保護者向けの学習・情報提供の機会が十分とはいえない。	・日常の支援を優先している運営体制であること。 ・保護者の就労状況や参加可能時間に幅があること。	・保護者ニーズの把握(アンケート等)の実施。 ・書面・配信など多様な情報提供方法の検討。 ・小規模・短時間での学習機会の導入検討。
3	・保育園や認定こども園、幼稚園との交流や活動する機会が確保できてない。	・個人情報や配慮事項への慎重な対応が必要であること。 ・日程・運営面の調整の難しさ。	・情報共有の方法、同意取得手順の整理。 ・小規模、段階的な交流の機会の検討。